

サクセスストーリー

日立ストレージソリューション

稼働中

Industrial Electric Wire & Cable (IEWC)

業種 小売／卸売

ソリューション ビジネス継続

- ハードウェア — Hitachi Adaptable Modular Storage 2300,
Hitachi Adaptable Modular Storage 500
- ソフトウェア — Hitachi ShadowImage Replication,
Hitachi Copy-on-Write Snapshot
- サービス — Implementation Service for Hitachi Adaptable Modular Storage
2300 provided by Hitachi Data Systems Global Solution Services;
presales, implementation and connectivity services provided by
Hitachi TrueNorth Channel Partner AE Business Solutions



「以前は、ストレージ容量と技術面の限界により苦しんでいました。日立のシステムになって、最新の機能を手に入れ、無停止型データプロテクションも活用できて、急速に伸びるビジネスへの対応、顧客へのより幅広くきめの細かいサービス提供も難なくできるようになり、大変助かっています」

Matthew Stroh氏
SAP ベーシスアドミニストレーター
Industrial Electric Wire & Cable



IEWCは、日立Adaptable Modular Storageで、柔軟性のあるビジネス継続性を実現

業績が2桁の成長率を示すIndustrial Electric Wire & Cable (IEWC)社は、最近SAPシステムを導入しました。そのため、新たに備わった機能を十分に活用し、急増するデータ量に対応するのに、信頼性の高いストレージ基盤を必要としていました。これらの課題に応えたのが、Hitachi Adaptable Modular Storage 2300および500でした。これらの製品は、拡張性に優れ、99.999%のデータ可用性を有し、ビジネスの継続性とパフォーマンスを高めることを目的に設計された、柔軟かつ先進的なストレージ機能群を備えており、またその一方で管理の簡素化も実現しています。

ほぼ全産業において張り巡らされているワイヤー、ケーブル、ワイヤーマネジメントの製品は、IEWC社のものです。この流通会社の中でトップにあり、ワイヤーとケーブルの注文をこなしている同社は、世界中のOEM顧客や部品組立業者のサプライチェーンのニーズを満たすことに専念しています。同社は、ウィスコンシン州に本社を置く従業員所有の会社で、北米、ヨーロッパ、中国に流通センターがあり、50年近くにわたって、「たゆみない改善と優れたサービス」をモットーに事業を展開してきました。IEWC社は、軍部、航空宇宙産業、自動車、および製造会社にソリューションを提供し、さらに、新興の風力発電およびエネルギー産業へも、その技術専門知識とサービスを広げてきました。こうした事業拡大に、多数の企業買収や新サイト購入も重なってワイヤーとケーブルの流通企業として急速に成長していきました。

よりよいビジネスへ向けての大きなビジョン

IEWC社は、近年において、年間2桁のビジネス成長を見込んでいます。不安定な世界経済にあって、これは素晴らしい業績です。しかし、不調なストレージアーキテクチャーに加え、新たに大型のアプリケーションが次々と導入されたため、ビジネスを支援するために、データの増加を安全かつ効率よく管理しなければならなくなりました。IEWC社のIT部は小部隊ながらも大きなビジョンを持っています。そのプランは、野放図になっているサーバーームと小さなデータベースシステム群を凝集されたデータセンターに転換し、年中無休のオペレーション、新顧客のためのカスタマポータル、膨大なSAPシステム、サービス指向アーキテクチャー(SOA)をサポートできるようにし、それと同時に、

ビジネス継続と顧客満足の改善も図るというものです。「バックアップ窓の時間枠がだんだん狭くなり、ディスク障害や、ただもうおびただしい数の性能問題が起こって、日常業務や環境管理に影響するというパターンになってきました。私たちの関心事は、特に新しいプログラム群と機能群を、可用性、性能、収容能力、管理の効率性への困難な要求を満たして、いかにしてうまくオンラインに乗せるかということです。とにかくすべての問題をクリアするつもりです」とIEWC社のSAPベースシステムアドミニストレーターのMatthew Stroh氏は語ります。

ITの複雑さと手を切る

新しいSAP環境やアプリケーション群が、洪水のように、既存のEMC ClariionストレージとOracleデータベース上で走るようになり、IT環境は、急速に複雑化され膨張していきました。完全バックアップは毎日のように4~5時間かけて行われ、全ての復元には8時間近くかかるようになってきました。ファイバーチャネルのディスク障害が2年間に十数回起こるようになり、IEWC社は、プログラム群のオンライン移行のため、もっと信頼性の高い、柔軟でかつ拡張性のあるソリューションを何としても見つけようとしていました。「新しくりっぱなアプリの機能が揃ったのですが、それらを当時のハード機器では有効に使うことは到底できませんでした。私たちは、CRM [customer relationship management]や新しいWebサービスを始め、SAP Business Information Warehouse、SAP NetWeaver Development Infrastructure (NWDI)といったありとあらゆる機能を導入していきました。また、極めて重要なSAP ECC 6.0も取り入れました。これは、ERP [企業資源計画]に取って代わるSOAベースの企業向けプラットフォームです。こうして、これら全てを促進するもっと品質の高いストレージ機能が必要になったのです」とStroh氏は説明します。

高度なストレージアーキテクチャーを探すにあたって、基本にあったのは、高い可用性と性能のみならず、データクローニングと保護のためのスナップショット技術などのコアコンピタンスを「必須」とするものでした。また、資源を最適化し、性能のボトルネックを避けるには、ストレージ仮想化と高いI/Oスループットが鍵になります。現地で専門技術と支援を提供してくれるストレージサプライヤーを探すことも、重要なことでした。

ソフトウェアを導入しました。この日立のソフトウェアは、極めて重要な情報の複数コピーを無停止でローカルにミラーリングして、ビジネス継続を強化するように設計されており、スナップショットを取って、IEWC社が迅速な復元と本番環境のバックアップと、SAP開発、およびテスト環境のバックアップに使えるようにします。Adaptable Modular Storage 500は、現在、ECCプラットフォームのプライマリストレージとして使用

ジョニング、高度な障害分離性、および常に安定した性能の維持といった機能も備えています。Adaptable Modular Storage 2300は、稼働率が99.999%と標準ベンチマークを満たしており、前世代に比べて4倍の性能を発揮できるため、IEWC社のデータ増大と作業負荷の要求に応えることができます。日立のシステム2台 (Hitachi Adaptable Modular Storage models 2300および500) は、それぞれ4Gbファイバーチャネル対応のBrocade 300Eフルファブリックスイッチから成るファブリックで全ホストに接続され、どちらのシステムからでもストレージのデータをいつでもシームレスに引き出すことができます。

Adaptable Modular Storage 2300の背後で仮想化されるのは2台のVMware ESXサーバボックス、18台のメインサーバ、多数のアプリケーションです。IEWC社のビジネス継続計画の次の段階は、さらなる環境の統合と仮想化で、最終的には仮想化したデスクトップ戦略とオフサイトのディザスタリカバリを築くことです。従来のmost recently used (MRU) ポリシーでは、仮想化されたVMware環境で作業負荷の不均衡が生じることがありましたが、Adaptable Modular Storage 2000シリーズでは、プライマリパスをなくしてマルチパス管理の自動化を行います。

可用性の高いデータストレージでコントロールを得る

IEWC社は、日立のストレージのおかげで、バックアップ/復元プロセスおよびSAPシステム導入の時間を著しく短縮でき、また一方で、ストレージを簡素化して、顧客との取引も増やすことができました。「以前は、SAPの新しいシステムをインストールする場合、システムの構築やパッチの適用に何日もかかっていました。今ではその作業が一回ですみ、あとはスナップショットクローニングを使って、18のシステムをアップデートするだけです。

「弊社の環境でクローニングプロセスが働くことを実証できたサプライヤーは、日立データシステムズだけでした。日立チームがストレージのプロであることは、コンセプトの段階からプランニング、そして実装にいたるまでのプロセスを通してよく分かりました。それに、Hitachi Adaptable Modular Storageの復元機能(レジリエンス)の高さには本当に感心しました」

Matthew Stroth氏
SAPベースシステムアドミニストレーター
Industrial Electric Wire & Cable社

「見込みのあるソリューションを多数検討しました。弊社の環境でクローニングプロセスが働くことを実証できたサプライヤーは、日立データシステムズだけでした。日立チームがストレージのプロであることは、コンセプトの段階からプランニング、そして実装にいたるまでのプロセスを通してよく分かりました。それに、Hitachi Adaptable Modular Storageの復元機能(レジリエンス)の高さには本当に感心しました」とStroth氏は語ります。

復元機能、性能、簡素化をセットにしたAdaptable Modular Storage 2300

IEWC社はIT改革を始めるにあたり、まずHitachi ShadowImage Replication機能のついたHitachi Adaptable Modular Storage 500とHitachi Copy-on-Write Snapshot

され、HP-UXシステム上で起動しているEMC NetWorker用にSATAのバックアップを行っています。Hitachi Adaptable Modular Storage 2000シリーズのリリースによって、IEWC社は、引き続き、ビジネス継続とアプリケーション性能の増強を進めていくことができます。新しく導入されたAdaptable Modular Storage 2300は、すでに高速のデータ転送と並外れた処理能力で稼働中です。巨大なSAPモジュールに対応し、加えてストレージ仮想化への移行もサポートしています。Adaptable Modular Storage 2000シリーズは、業界で初めてのポイント・トゥ・ポイント接続形態で転送速度が3Gb/秒のシリアル・アタッチトSCSI (SAS) アーキテクチャを提供します。これは、全帯域幅が9600MB/秒で最大32リンクです。また、ダイナミックロードバランスコントローラ機能による効率性の高いデータ転送、自動ストレージプロビ

システムにつき、3日間の時間削減になります」とStroh氏は語っています。

「Adaptable Modular Storage 2300なら、性能の劣化やボトルネックが皆無で一度に複数のパスを使えます。実際、スループットも非常に高速で性能も向上しました。日立のシステムは、復元性(レジリエンス)と柔軟性に優れ、拡張も容易にできます。以前は、ストレージ容量と技術面の限界により苦しんでいました。日立のシステムになって、最新の機能を手に入れ、無停止型データプロテクションも活用できて、急速に伸びるビジネスへの対応、顧客へのより幅広くきめの細かいサービス提供も難なくできるようになり、大変助かっています」とStroh氏は結びました。

AE Business Solutions社について

AE Business Solutions社は、エンド・ツー・エンドのITコンサルティングサービスと技術を提供するリーダとして、企業による効果的かつ革新的なビジネスソリューションの設計と実践を支援します。AE Business Solutions社のデータセンターソリューションには、ネットワークソリューション周りの機能、安全、仮想化、アプリケーションサービス、コンサルティング、人材派遣サービスなどが含まれており、プロジェクトの内容を深く広く理解した上で幅広いアプローチを取っています。

顧客価値に焦点を当て、実証済みのワークモデルを使って、自社の専門チームが業界の動向の変化にいち早く対応して推進していけるようにしています。AE Business Solutions社は、専門技術と数々の認定資格を背景に、優れたエンジニアリング力と日立データシステムズの実績あるエンタープライズストレージソリューションを融合したサービスの提供を行います。日立のTrueNorth Channel Partnerとして、顧客のストレージソリューションの品質、信頼性、性能を確実にするよう力を入れています。

AE Business Solutions社の詳細についてはwww.aebs.comをご覧ください。